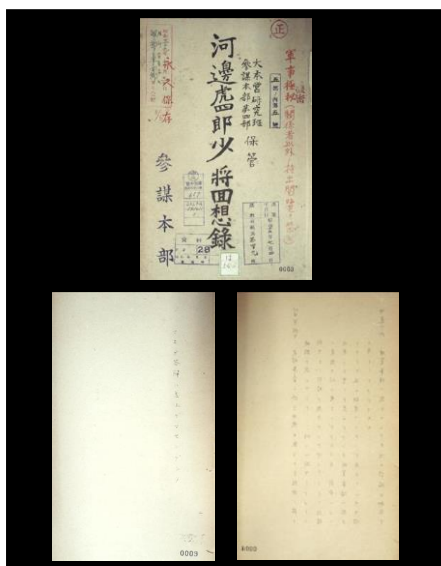


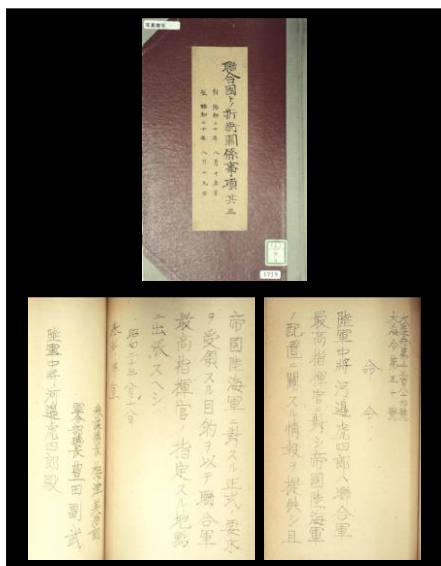
平成29年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 <sup>かわべ</sup> <sup>とらしろう</sup> 河辺 虎四郎 1890～1960年 》  
—富山県出身の陸軍中將—



**河辺虎四郎少将回想録** (登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-657)

河辺虎四郎中將は、明治45年5月、陸軍士官学校(24期)を卒業後、昭和6年の満州事変勃発時に参謀本部作戦班長、昭和12年の支那事変勃発時に参謀本部戦争指導課長、次いで作戦課長として事変の対応にあたります。この史料は「河辺虎四郎少将回想録」で、昭和15年7月、当時大本営研究班員であった竹田宮恒徳王殿下が、支那事変における中央部の統帥に関する研究資料として、河辺少将を直接聴取した際の速記録です。このなかで河辺は、「予定ガ次カラ次ヘ外レテ三年モ四年モ好マザルニ引張ラレルトイフコトハ機構ガ悪カツタトイフヨリモ当局ニ『人』ガ不足シテ居タ」、「私如キ一介ノ課長ニ過ギマセンガ何レニモ血ヲ吐クヤウナ熱ガ足りナカツタト相済マヌコトト思ツテ居リマス」と述べています(『現代史資料(12) 日中戦争4』みすず書房、1965年)。



**联合国トノ折衝関係事項** (登録番号：文庫-柚-7・9～17・26)

昭和13年3月作戦課長から浜松陸軍飛行学校教官に転出した河辺は、第2航空軍司令官等の要職を経て、昭和20年4月参謀次長に就任、終戦を迎えます。そして昭和20年8月19日、「連合軍最高指揮官ニ対シ帝国陸海軍ノ配置ニ関スル情報ヲ提供シ且帝国陸海軍ニ対スル正式ノ要求ヲ受領スル」(大陸命第1384号、大海令第50号、昭和20年8月18日付)ためマニラに出張、降伏文書などの三文書と連合国の要求事項に関する四文書を受領し、21日東京に帰着します。じ後降伏文書調印までの日本の行動は、これら文書に律せられ、その対応の如何は日本の戦後を大きく左右するものでした。この史料は、「联合国トノ折衝関係事項」(昭和20年8月7日～9月16日)で、上記文書その他、日本と連合国との折衝事項や大本営の処置などが綴られています(『占領史録 第1巻 降伏文書調印経緯』講談社、1981年)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp